

2024年度（令和6年度）第1回 富秋中学校区等まちづくり検討会議 議事概要

1. 日 時：2024年（令和6年）5月24日（金）19：00～

2. 場所：和泉市 人権文化センター1階 大会議室

3. 出席者：委員 19人
和泉市職員 23人
コンサルタント 3人

4. 議事次第

1 開会

2 議題案件

（1）検討会議委員・役員交代について

（2）まちづくり検討会議のスケジュールについて

3 報告案件

（1）市営住宅集約建替他公共施設整備等事業の整備スケジュール（案）の報告について

（2）富秋中学校区等跡地活用ビジョン策定に向けたまちづくり検討会議との対話に係る考え方の報告について

（3）開校準備委員会の報告について

4 その他

5 閉会

5. 議事概要

※以下、特記無き場合委員の発言

■開会

○検討会議の趣旨や今後の進め方について説明

○出席者の自己紹介

■検討会議委員・役員交代について

○事務局長から（資料番号1）の説明

・野井氏が会長、岸田氏が副会長、松下氏及び神山氏が顧問として、委員の同意を得て選任。

・開校準備委員会について、検討会議から選出される委員について、昨年度と同じ5名であることで異議なし。

- ・富秋中学校 PTA が解散したこともあって、子育て関係の委員が減っているため、委員への推薦者があれば事務局まで連絡願う。

■まちづくり検討会議のスケジュールについて（資料番号2）

○市（富まち担当）から説明

- ・入札手続中であり、公正性の観点により、市から公表している以外の詳細な情報はお伝えできない。
- ・事業者決定の検討会議への報告は、契約締結後の2025年（令和7年）1月～2月で予定をしているが、その間に検討会議に諮る案件がある場合は、必要に応じて開催される。

○質疑応答

- ・事業者選定の審査をする委員と話ができないのか。できないならば、地域の思いを市が審査員の方に伝えてほしい。

⇒事業者選定の委員は、和泉市に精通し、専門的見地がある人を選定している。また、各委員に対し、まちづくり構想や基本計画の内容を市から丁寧に説明することで、地域の思いや要望を伝えている。その内容を踏まえ、手続に沿って事業者を選定していく。（市）

⇒審査員の方には今までの経緯や地域の思いを知った上で、選定してもらえるとということか。（事務局長）

⇒そうである。（市）

- ・まちづくり検討会議は、地域主体だと理解した。次の検討会議まで日が空くが、ソフト面など検討会議の中で話したいことがある。委員が開催したいときに市が調整し、開催することが可能なのか。

⇒開催の必要が生じた場合は、必要に応じて開催する。検討会議規約第7条第1項により、会長が招集するとなっている。委員から会長に会議の発意があり、検討会議が開催されるとなった場合は、市としても積極的に事務局として協力したい。（市）

■市営住宅集約建替他公共施設整備等事業の整備スケジュール（案）の報告について（資料番号3）

○市（富まち担当）から説明

- ・事業スケジュールは、事業者の提案により示されるが、現在、市で想定しているスケジュールを説明した。
- ・資料にオレンジ色で示している1期事業では、市営住宅約230戸及び1次工区の市営店舗・作業所を令和9年度中に整備する予定。

- 資料に水色で示している 2 期事業では、2 次工区の市営店舗・作業所を令和 1 1 年の前半に、市営住宅約 320 戸及び多世代交流拠点施設を令和 1 2 年度中に、それぞれ整備する予定。
- 資料に緑色で示している 3 期事業では、3 次工区の市営店舗・作業所を整備する予定。
- 資料の位置図において、緑太線で囲った箇所に整備予定の（仮称）新旭公園は、本事業の中で、新旭公園の予定地に建っている団地の解体と、一部を仮設広場として整地し、令和 1 1 年の前半に先行して活用を行う予定。先に仮設広場として整地した箇所を含めて、令和 1 4 年度に別事業で一括整備する予定。

■富秋中学校区等跡地活用ビジョン策定に向けたまちづくり検討会議との対話に係る考え方の報告について（資料番号 4）

○市（富まち担当）から説明

- 市では、今年度から公共施設の再配置や跡地活用の方向性を示す「富秋中学校区等跡地活用ビジョン」の策定に取り組むため、市の関係課長が集まり検討する「ビジョン会議」を立上げた。
- 資料中段のオレンジ色で示している跡地活用ビジョンは、「まちづくり構想（地域版）」を尊重して策定された「富秋中学校区等まちづくり構想」における「跡地活用を具体化するもの」であるため、地域の皆様の意見を踏まえた跡地活用となるよう取り組む。
- 跡地活用ビジョンの策定に当たっては、市で跡地活用ビジョンの案を検討した後に、まちづくり検討会議を通して地域の皆様との対話を行う予定。

○質疑応答

- 大阪市の跡地活用の事例では、跡地に物流センターができ、地域の活性化にはつながらなかった。地域の活性化につながるような跡地活用をしてほしいし、検討会議でも議論していきたい。（事務局長）
- まちづくり構想（地域案）作成の際には、幼稚園での保護者への意見徴収やアンケートなど、地域の声を聴く機会があったが、跡地活用に関しては市民が直接かかわる機会がないのか。まちづくり検討会議は地域の代表という立場ではあるが、検討会議との対話のみで跡地活用が決まるのは問題があるのではないか。もっと地域の住民が跡地活用に意見を言うことができる機会があればよいと思う。跡地活用ビジョンについても数か月に 1 回対話をするなど示してもらえれば安心できる。

⇒市民意見が反映されているまちづくり構想をベースとした跡地活用を考えている。地域の方の意見については、まずは地域の代表の会議である検討会議を第一に考えていきたい。今後地域の方から意見があるのなら、対話の場を設けたい。1 月～2 月で開催予定の検討会議までに対話する場を持ちたいという意向があれば、市からでも委員からでも発議があってよい

と考えている。(市)

- ・ビジョン会議のメンバーは市職員なのか。体制イメージについて詳しく説明してほしい。(市)

⇒ビジョン会議は施設の所管課課長などが話し合う庁内の会議体である。ビジョン会議の会長は、富秋中学校区等まちづくり担当の課長が役職を担う。ビジョン会議の目的は、市の縦割り行政ではなく、横断的に連携して情報共有、認識合わせ、跡地活用の検討・調整をすることである。各部局の対応についてもビジョン会議で何度も検討を重ねたいと考えている。ビジョン会議で方向性が定めれば、副市長や市長に報告をする。跡地活用ビジョンを考える中で、誘導する都市機能によっては用途地域の変更がある可能性があるため、その際は都市計画審議会において審議し、都市計画の変更手続をとる必要がある。

- ・ビジョン会議の構成がわからないので、資料の余白のところに、構成メンバーの担当課を記載してほしい。

⇒ビジョン会議の構成メンバーを検討会議委員に情報共有する。(市)

- ・ビジョン会議とまちづくり検討会議の関係性はどうなるのか。

⇒跡地活用は、市営住宅など公共施設撤去後の跡地を有効活用する方向性や方法を考えるものである。公共施設の配置と民間施設の誘導があるが、行政の公共施設を立地するのが優先される。ビジョンのある程度の素案が整えば、地域の方々との対話のため、検討会議に跡地活用に関する市の案を提示する。市のビジョン会議で検討した素案に対し、地域の方と対話する場として、まちづくり検討会議がある。(市)

⇒「対話」というのは、市で決定したことを説明するということか。検討会議で出た色々な思いがある意見について、ビジョン会議で反映されるのか。市で決めたものは変更できないというようなトップダウンのようなものではないということか。

⇒「対話」という表現については、まちづくり構想の中でも「地域との対話」という表現を使用している。一定の方向性を示すに当たり、行政案をつくる。各公共施設を再配置するため、各施設所管課から地域の関係者の方と意見交換をする場がある。行政だけの意見で作られるものではない。(市)

⇒地域には地域の思いがある。ビジョンを作ってから、トップダウン的に進めるのではなく、進捗状況も含め報告してほしい。(事務局長)

■開校準備委員会の報告について（資料番号5）

○市（教育総務課）から説明

- ・第10回学校開校準備委員会を2024年（令和6年）1月11日（木）に開催し、新校舎の設計施工業者の紹介、今後のスケジュールの説明、制服の他市事例の紹介、アンケートの実施対象などの意見交換を行った。

- 第 11 回は、2024 年（令和 6 年）3 月 21 日（木）に開催し、図書館の地域開放のイメージ案と蔵書について説明した。示されている開放時間では足りないのではないか、グラウンドや体育館の利用者にも図書館を利用してもらえるようにすればいい、地域開放のコンセプトを明確にする必要があるのではないか等の意見があった。
- 基本設計について、配置計画（案）を示し意見交換を行った。校舎玄関について、正門から遠い、北側・南側どちらからでも入れるように、南側道路は交通量が多いため対応を検討してほしい等の意見があった。
- 第 12 回学校開校準備委員会は、2024 年（令和 6 年）6 月中に開催を予定している。第 10 回学校開校準備委員会での意見をもとに 2024 年（令和 6 年）3 月末まで実施した制服アンケートの集計結果について説明を行うとともに、校章の決定方法等を取り扱っていきたいと考えている。

○質疑応答

- 富秋中学校の PTA が解散されたということだが、開校準備委員会において現役の保護者の意見はどのように反映させていくのか。

⇒広く意見を聴収できるよう、人選については、学校と調整していく。（市）

⇒学校の保護者が意見を出す仕組みは必要である。学校運営と工事が同時に行われるので、騒音などの問題が生じる可能性がある。現場の先生や保護者の意見を聞いてほしい。地域の教育に係る団体とも協議して、検討会議や開校準備委員会に入るメンバーを考えてほしい。（事務局長）

■その他

- 検討会議が主体となり居場所づくりイベントを行ってきた。また機会をみてやっていきたい。委員の協力をお願いしたい。（事務局長）

■閉会

以上